



【表紙写真】

サザンビーチ（神奈川県茅ヶ崎市）にあるモニュメントは、茅ヶ崎の「C」であるとともに、側に人が立つと「円」になることから、「縁（円）結び」スポットとしても有名です。

また、貧困や民族対立、環境問題など世界中の様々な問題をいたわりや譲り合いの心で乗り越え、幸せの「円（縁）」を描こうとの願いを込めた「思いやりの輪」の意味も。

今年も「小さな親切」でたくさんの縁を結んでいきます。

海と音楽の街・茅ヶ崎から発信

サザンオールスターズや加山雄三さん、尾崎紀世彦さんらを生んだ音楽の街・茅ヶ崎に待望のラジオ局が誕生！ 茅ヶ崎FM「EBOSHI RADIO STATION（通称：エボラジ）」には、カフェが併設され、オリジナルグッズなどが販売されているほか、桑田佳祐さんがメガホンをとった映画『稻村ジェーン』に登場した「ミゼット」やサーフボードが展示されています。サザンファンはもちろんのこと、広々とした店内でコーヒーやスイーツを楽しむも良し。茅ヶ崎を訪れた際はぜひ、訪れてみてはいかがでしょうか。



茅ヶ崎エフエム＆カフェ

〒253-0041 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番14号
(茅ヶ崎市役所横・東横INNに隣接)
※カフェの営業時間は10:00～18:00(水曜定休)

「小さな親切」誌は、季刊発行
春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

2024年1月25日発行 通巻533号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL.03-3263-2866 FAX.03-3263-3838
<https://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社
◎無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。



「徒然なるまことに」

2 024年の正月は、二つの悲しい事件から始まった。最大震度7を記録した能登半島地震と、羽田空港における飛行機の衝突事故。能登半島地震では、現時点で200名を超える方が亡くなり、安否のわからない方が30名を超えると報道されている。羽田空港における飛行機事故は、能登半島地震で被災した方々に支援物資を運ぶために離陸しようとしていた中で起きたとのことであり、地震がなければこのような事故も起きたと思うと、いたたまれない気持ちになった。

これらの地震及び事故で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、避難生活を送られている方々に何ができるか、日本全体で考えなければならない状況にあることを痛感している。同時にまさに今、被災地での「小さな親切」が広がりを示すべきときであると思う。

私 自身は、2018年に「小さな親切」運動本部の理事に就任したが、そのおかげで、日本中のたくさんの「小さな親切」を知る機会を頂いている。そして、「小さな親切」に関する事例に接するたびに、自分が弁護士として扱う事件の多くが、「小さな親切」と対極にあると感じている。

私は、会社の方から、人事や労務に関する法律相談を受けることが多いが、最近、最も多いご相談は、間違いなく「パワーハラスメント（パワハラ）」。パワハラの相談が多いのは、やむを得ない面がある。なぜなら、上司が部下に対して行う業務に関する注意や指導と密接に関連しているため、どこからがパワハラで、どこまでがパワハラでないかの区別、すなわち、ハラスメントか否かの境界線がどこにあるのかの判断が非常に難しいからだ。

しかし、この点について、私自身がセミナーや講演でいつも伝えるメッセージは、「そもそも、どこからがハラスメントかの境界線を探す必要はなく、絶対にハラスメントにならない行動を一人ひとりが考え続けてほしい」というものである。パワハラに限らず、禁止行為や犯罪には常にグレーゾーンが存在する中で、パワハラについてだけ、境界線ぎりぎりの行為を目指して行動する必要はない。

上 司は部下に対して注意や指導を行う必要があるが、その際「自分の目の前にいる部下は、上司である自分から心理的プレッシャーを受けているかもしれない」という思いを常に持ち続け、「絶対にハラスメントと言われないような行動」を心がけるしかないと思う。そして、このような心がけは、当運動の根底に流れる「他者を思いやる気持ち」があれば、決して難しいことではない。

当運動を通じてたくさんの思いやりに接するたびに、日本のすべての職場に「小さな親切」が広がっていけば、パワハラでつらい思いをする人がいなくなるのではないか、と感じている。